

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年7月28日
【四半期会計期間】	第32期第1四半期（自 2020年3月21日 至 2020年6月20日）
【会社名】	株式会社アジュバンコスメジャパン
【英訳名】	A D J U V A N T C O S M E J A P A N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松井 健二
【本店の所在の場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3136
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期 第1四半期連結 累計期間	第32期 第1四半期連結 累計期間	第31期
会計期間	自 2019年3月21日 至 2019年6月20日	自 2020年3月21日 至 2020年6月20日	自 2019年3月21日 至 2020年3月20日
売上高 (千円)	999,648	1,085,870	4,674,081
経常損失 () (千円)	164,957	6,619	157,692
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	140,437	5,298	227,928
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	141,150	4,902	239,066
純資産額 (千円)	4,218,015	3,939,861	4,123,980
総資産額 (千円)	5,447,229	5,145,485	5,250,788
1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	17.65	0.66	28.63
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.4	76.6	78.5

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株あたり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株あたり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当社の連結子会社であった株式会社アジュバンコスメティックは、2020年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、社会経済活動の自粛により消費が大幅に縮小しており、極めて厳しい状況にありました。緊急事態宣言の解除と政府の政策により、消費活動に持ち直しの動きがみられますが今後の国内外の感染の動向による影響に留意が必要な状況となっております。

美容業界におきましても、サロン^{注1}の時短営業及び臨時休業並びに外出自粛による客数の減少等の影響があり、当社商品を販売するアジュバンサロン^{注2}においても同様の影響がありました。

このような状況のもと、当社グループは、2021年3月期の営業テーマを「顧客の創造・関係性の強化」とし、営業方針を「年間販促計画の策定と実行」「カウンセリングの知識・技術の習得」「アフターフォローの習慣化」「顧客分析の徹底」として掲げ、サロンの安定した経営サポートを目指しております。新型コロナウイルスの感染予防及び感染拡大防止に関しては、「新型コロナウイルスに関する指針」を新たに定め、テレワークの導入や対人接触を伴う営業活動を自粛し安全対策を実施しております。

また、当第1四半期連結累計期間より意思決定の迅速化と組織運営の効率化を目的として、連結子会社であった株式会社アジュバンコスメティックを吸収合併いたしました。

加えて、収益を生む体制の再構築を目指すため、重点エリアへの営業人員の再配置等による営業の効率化に取り組んでおります。

売上高につきましては、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,085百万円（前年同期比8.6%増）となりました。詳細は区分別売上高の概要を参照ください。なお、アジュバンサロン登録軒数につきましては、当第1四半期連結会計期間末で7,887軒（前期末比92軒増）となりました。

売上高の増加及び販売費や旅費交通費等の減少により利益面では、営業損失7百万円（前年同期は営業損失170百万円）、経常損失6百万円（前年同期は経常損失164百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失5百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失140百万円）となりました。

区分別売上高は、売上割戻金を含めて次のとおりであります。

区分	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間		増減額 金額(百万円)	増減率 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)		
スキンケア	367	36.7	386	35.6	19	5.4
ヘアケア	535	53.5	586	54.0	51	9.7
その他	168	16.9	188	17.4	19	11.6
売上割戻金	71	7.1	75	7.0	4	-
合計	999	100.0	1,085	100.0	86	8.6

(注)1. エクシードシステム株式会社(連結子会社)、ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED(連結子会社)の売上高は、「その他」に含んでおります。

2. 売上割戻金は、商品ごとではなく売上高の合計を基準として割戻率を設定しているため、区分ごとに配賦せず合計額で表示しております。

国内海外別売上高は、次のとおりであります。

区分	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間		増減額 金額(百万円)	増減率 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)		
国内売上高	921	92.2	1,043	96.1	122	13.3
海外売上高	78	7.8	42	3.9	36	46.0
合計	999	100.0	1,085	100.0	86	8.6

当社グループは、単一セグメントであるためセグメント別の記載はしていませんが、区分別売上高の概要は以下のとおりであります。

(スキンケア)

スキンケア商品の売上高は、ミドルブランドである「A E R i c h」は前期と比べて苦戦しておりますが、昨年リニューアルした「A L L E n r i c h」が堅調に推移しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は386百万円(前年同期比5.4%増)となりました。

(ヘアケア)

ヘアケア商品の売上高は、「Re:>>>」のうち、「クラスSライン」が前期と比べて苦戦しておりますが、「ベーシックライン」は順調に推移しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は586百万円(前年同期比9.7%増)となりました。

(その他)

エクシードシステム株式会社(連結子会社)の売上高は、国内のサロンアンサーシステム注3の導入件数が、当第1四半期連結会計期間末において1,030件と順調に推移した結果、増加いたしました。

一方、香港の条例改正案に対する抗議活動と新型コロナウイルス感染症の影響のため、ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED(連結子会社)の海外売上高は、減少しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は188百万円(前年同期比11.6%増)となりました。

注1「サロン」

理美容室・エステティックサロン・ネイルサロン・アイラッシュサロン・美容クリニック等を指します。

注2「アジュバンサロン」

初回に100千円以上の仕入を行い、当社グループが指導する商品の案内方法等を定めたアジュバンサロン契約を締結したサロンを指します。

注3「サロンアンサーシステム」

エクシードシステム株式会社(子会社)が販売する、クラウド型経営サポート(サロンの顧客管理、経営分析)システムを指します。

財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して105百万円減少し、5,145百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して102百万円減少の2,645百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金の減少243百万円、売掛金の増加100百万円、商品及び製品の増加18百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して3百万円減少の2,499百万円となりました。主な変動要因は、有形固定資産の償却等による減少16百万円によるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して77百万円増加の737百万円となりました。主な変動要因は、買掛金の増加27百万円、賞与引当金の増加65百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して0百万円増加の468百万円となりました。主な変動要因は、退職給付に係る負債の増加1百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して184百万円減少の3,939百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失による減少5百万円、配当金の支払による減少191百万円によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、38百万円であります。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月20日)	提出日現在発行数(株) (2020年7月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,996,200	7,996,200	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	7,996,200	7,996,200	-	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、2020年7月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年3月21日～ 2020年6月20日(注)	25,800	7,996,200	5,959	765,630	5,959	725,562

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年3月20日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年6月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,962,000	79,620	(注)
単元未満株式	普通株式 2,000	-	-
発行済株式総数	7,970,400	-	-
総株主の議決権	-	79,620	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、1単元の株式数は、100株であります。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社保有の自己株式3株が含まれております。

【自己株式等】

2020年6月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社アジュバンコスメジャパン	神戸市中央区 下山手通5丁 目5番5号	6,400	-	6,400	0.08
計	-	6,400	-	6,400	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2020年3月21日から2020年6月20日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年3月21日から2020年6月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,478,313	1,234,786
売掛金	454,938	555,623
商品及び製品	638,440	656,949
仕掛品	21,532	20,578
原材料及び貯蔵品	76,851	88,157
その他	82,337	98,705
貸倒引当金	4,606	9,140
流動資産合計	2,747,807	2,645,660
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,137,993	1,137,988
土地	720,678	720,678
その他	456,489	462,316
減価償却累計額	651,458	674,047
有形固定資産合計	1,663,703	1,646,935
無形固定資産		
投資その他の資産	46,185	49,439
投資有価証券	526,869	528,000
その他	282,184	292,924
貸倒引当金	15,962	17,475
投資その他の資産合計	793,091	803,449
固定資産合計	2,502,980	2,499,824
資産合計	5,250,788	5,145,485
負債の部		
流動負債		
買掛金	132,297	159,645
1年内返済予定の長期借入金	17,755	12,730
未払法人税等	9,254	120
賞与引当金	104,873	170,747
その他	395,244	394,001
流動負債合計	659,425	737,245
固定負債		
退職給付に係る負債	43,421	45,159
資産除去債務	15,342	15,339
長期未払金	384,470	384,470
その他	24,148	23,409
固定負債合計	467,382	468,378
負債合計	1,126,808	1,205,623

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	759,671	765,630
資本剰余金	731,374	737,334
利益剰余金	2,648,728	2,452,294
自己株式	5,833	5,833
株主資本合計	4,133,941	3,949,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,388	10,907
為替換算調整勘定	1,427	1,342
その他の包括利益累計額合計	9,960	9,564
純資産合計	4,123,980	3,939,861
負債純資産合計	5,250,788	5,145,485

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年6月20日)
売上高	999,648	1,085,870
売上原価	415,080	438,524
売上総利益	584,568	647,345
販売費及び一般管理費	755,458	654,418
営業損失()	170,890	7,072
営業外収益		
受取利息	11	67
受取配当金	7,131	140
受取家賃	450	450
貸倒引当金戻入額	-	271
雑収入	723	1,202
営業外収益合計	8,316	2,131
営業外費用		
支払利息	32	13
為替差損	2,351	1,664
営業外費用合計	2,384	1,678
経常損失()	164,957	6,619
特別損失		
固定資産除却損	2,811	-
特別損失合計	2,811	-
税金等調整前四半期純損失()	167,769	6,619
法人税、住民税及び事業税	11,781	4,844
法人税等調整額	39,114	6,165
法人税等合計	27,332	1,321
四半期純損失()	140,437	5,298
親会社株主に帰属する四半期純損失()	140,437	5,298

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年6月20日)
四半期純損失()	140,437	5,298
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	538	481
為替換算調整勘定	174	85
その他の包括利益合計	713	396
四半期包括利益	141,150	4,902
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	141,150	4,902
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当社の連結子会社であった株式会社アジュバンコスメティックは、2020年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年6月20日)
減価償却費	27,487千円	25,951千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月14日 定時株主総会	普通株式	190,934	24	2019年3月20日	2019年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年6月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月18日 定時株主総会	普通株式	191,135	24	2020年3月20日	2020年6月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年6月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

連結子会社の吸収合併

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業内容

結合当事企業の名称：株式会社アジュバンコスメティック

事業の内容：当社の販売する化粧品、美容・理容器材の商品企画及び生産管理、品質管理

(2) 企業結合日

2020年3月21日

(3) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、株式会社アジュバンコスメティックを吸収合併消滅会社とする吸収合併方式

(4) 結合後企業名称

株式会社アジュバンコスメジャパン

(5) その他取引の概要に関する事項

株式会社アジュバンコスメティックは、当社の100%出資連結子会社として、当社の販売する化粧品、美容・理容器材の商品企画及び生産管理、品質管理を行ってまいりましたが、意思決定の迅速化と組織運営の効率化を目的として、吸収合併することといたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成31年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行いました。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年6月20日)
(1) 1株当たり四半期純損失()	17.65円	0.66円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	140,437	5,298
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	140,437	5,298
普通株式の期中平均株式数(株)	7,955,597	7,978,580
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-円	-円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年7月28日

株式会社アジュバンコスメジャパン
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西野 尚弥 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アジュバンコスメジャパンの2020年3月21日から2021年3月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年3月21日から2020年6月20日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年3月21日から2020年6月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アジュバンコスメジャパン及び連結子会社の2020年6月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。